

ワラル JICA 専門家事件 30 年目追悼式

片山大使挨拶【2021年7月12日】

先ず始めに、日本政府を代表し、宮川清忠氏、中西浩氏及び金良清文氏の3名の犠牲者に対し、改めて衷心より深い哀悼の意を表します。また、御遺族に対して改めて心よりお悔やみ申し上げます。

優秀かつ、善意に満ちた3人が、道半ばにして、突如残忍な方法でテロリストにより殺害されてから、本日で30年が経ちました。我々の深い憤りと悲しみは、いくら年月が経過しても決して消え去ることはありません。

彼等専門家は、ペルーの野菜生産技術向上のために真摯に取り組んでおられました。事件後、日本人専門家や協力隊員はペルーから一時期引き上げざるを得ませんでした。しかしながら、専門家達の熱い思いは現地ペルー人スタッフに脈々と引き継がれ、現在もここ野菜技術研究センターはペルーの農業分野で重要な役割を担っていると伺っています。

現在、日本政府は農業分野を含め様々な分野で開発協力を行っており、引き続きペルーの農業発展、ひいてはペルー国民の生活向上のために最大限努力する所存です。そのためには、テロを始めとする種々の危険や懸念を払拭し、関係者が安全に活動できる環境があって初めて意義ある協力が可能です。この場をお借りして、引き続き皆様の一層の御理解・御協力を改めてお願いする次第です。

最後になりますが、30回目を迎える本追悼式の開催に御尽力いただきました関係者に感謝の意を表するとともに、コロナ禍にあって皆様のご健康と一刻も早い収束を祈念して私の挨拶といたします。

ありがとうございました。